

テーマ：家計調査（2007年2月）

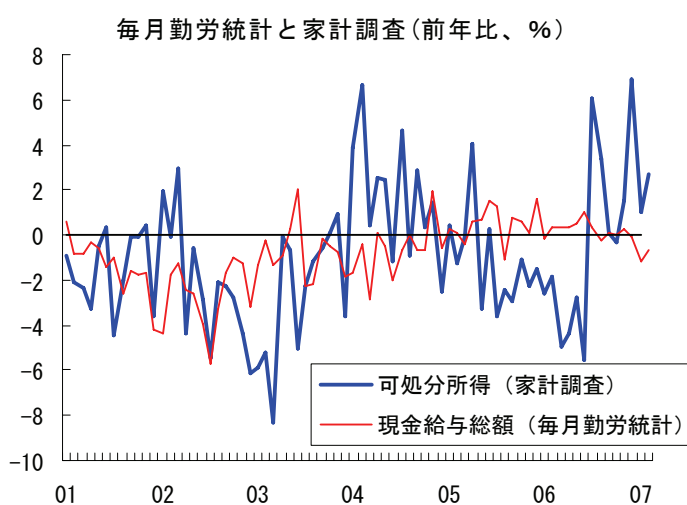
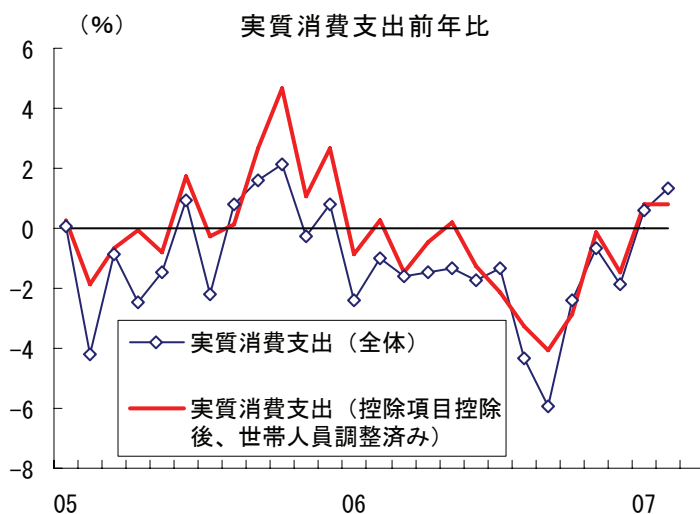
発表日：2007年3月30日（金）

～ 1月に続き、2月の個人消費も好調 ～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 副主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL:03-5221-4528

		実質消費支出 (二人以上世帯)		実質可処分所得 (勤労者世帯)		消費性向 (勤労者世帯)	
		前年比	前期比	前年比	前期比	季調値	前年差
06	1月	▲2.4	▲0.9	▲2.5	1.5	74.8	▲1.3
	2月	▲1.0	▲0.4	▲1.8	0.2	74.4	1.3
	3月	▲1.6	0.2	▲4.7	▲2.5	74.4	1.2
	4月	▲1.5	▲0.2	▲4.3	2.4	72.6	0.4
	5月	▲1.3	0.6	▲2.9	▲2.1	75.2	0.7
	6月	▲1.7	▲0.1	▲6.2	▲1.7	76.2	1.7
	7月	▲1.3	▲1.1	5.6	10.2	68.7	▲4.8
	8月	▲4.3	▲1.0	2.3	▲4.1	70.6	▲5.4
	9月	▲6.0	▲1.0	▲0.7	▲1.7	70.8	▲5.2
	10月	▲2.4	2.7	▲0.9	0.5	73.1	▲1.7
	11月	▲0.7	0.2	1.1	1.3	73.0	▲2.1
	12月	▲1.9	▲0.6	6.5	3.4	70.0	▲4.5
07	1月	0.6	1.4	1.0	▲4.1	74.8	0.0
	2月	1.3	0.2	2.8	1.8	70.5	▲4.1

(出所) 総務省「家計調査報告」



○ 2月の個人消費も好調

2月の家計調査実質消費支出（二人以上世帯）は前年比+1.3%と2ヵ月連続で増加し、事前コンセンサス（+0.6%、レンジ：▲0.3%～+2.0%）を上回った。季節調整済み前月比も+0.2%と、前月（同+1.4%）に続いて増加している。QE個人消費の需要側推計値の作成に際して控除される品目を取り除き、世帯人員を調整したベースで計算しても前年比+0.8%（1月同+0.8%）と2ヵ月連続の増加となっている。先日公表された商業販売統計でも2月の財消費は好調な結果となっていたが、サービスを含む家計調査でも

良好な結果が示された。暖冬の影響で春物衣料の売れ行きが好調だったほか、日照時間が長く、外出機会が増加したことで外食等のサービス消費も押し上げられたようだ。家計調査はサンプル数の少なさに由来する振れが大きいいため、4月3日公表の家計消費状況調査なども確認する必要はあるが、まずは強めの結果といっって問題ない。個人消費は足元で緩やかに持ち直している。

家計調査はGDP個人消費の基礎統計の一つである。1、2月の家計調査が予想以上に底堅いことにより、1-3月期のGDPベース個人消費は比較的高い伸びになる可能性が大きくなってきた。GDP全体でも、今のところ大きく押し下げに寄与する需要項目は見当たらない。1-3月期のGDPも潜在成長率を上回る成長が実現する可能性は十分あるだろう。